

ワンセグ対応 地上デジタルテレビ チューナー

取り付けと接続

お買い上げいただきありがとうございます。

△警告 本機は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故の原因となります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

販売店様へのお願い
本機の取り付け後、この「取り付けと接続」は、必ずお客様へご返却ください。

XT-DT1

© 2007 Sony Corporation Printed in Japan

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

● <http://www.sony.co.jp/SonyDrive/>

お客様ご相談センター
● ナビダイヤル 0570-00-3311
(全国どこからでも市内通話料ご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は... 03-5448-3311
(ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください)

● FAX 0466-31-2595

受付時間：月～金 9:00～20:00 土・日・祝日 9:00～17:00
お電話は自動音声応答でお受けています。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

⚠ 警告 安全のために

警告表示の意味

「取り付けと接続」および取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠ 注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えることがあります。

⚠ 警告

下記の注意を守らないと、火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

取り付けはお買い上げ店に依頼する

本機の取り付けには専門知識が必要です。万一本機自分で取り付けるときは、「取り付けと接続」の説明に従って、正しく取り付けてください。正しい取り付けでないと、火災や感電の原因となります。

⚠ 指示

取り付け、接続作業をするときには、必ずイグニッションキーをOFFにするか、キーを抜いておく

イグニッションキーをONにしたまま作業をすると、バッテリー上がりや、ショートによりヒューズ飛びや発煙などの原因となります。

⚠ 指示

パイプ類、タンク、電気配線などを傷つけない

火災の原因となります。車体に穴を開けて取り付けるときは、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認してください。

⚠ 禁止

24V車に使用しない

本機はDC12Vマイナスアース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24V車で使用すると火災などの原因となります。

⚠ 禁止

車の性能を維持するための部品を使わない

車体のボルトやナットを利用すると、ステアリングやブレーキ系統、タンクなどの部品を使うと、制動不能や火災の原因となります。

● ステアリング系統
● ブレーキ系統
● タンク類など

⚠ 禁止

エアバッグシステムの動作を妨げる場所には取り付けない

動作を妨げる場所に取り付けると、エアバッグが正常に働きかず、けがの原因となります。

⚠ 禁止

前方の視界を妨げる場所に取り付けない

前方の視界の妨げになると、事故やけがの原因となります。

⚠ 禁止

規定容量のヒューズを使う

ヒューズを交換するときは、必ずヒューズに記載された規定容量のアンペア数のものをお使いください。規定容量を超えるヒューズを使うと、火災の原因となります。

⚠ 指示

付属の部品で正しく取り付ける

他の部品を使うと、機器の内部を傷つける、しっかり固定できないなどで、火災やけがの原因となることがあります。

⚠ 指示

雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

⚠ 禁止

運転操作の妨げや車体の可動部の妨げになる場所に取り付けない

運転の妨げになる場合、車体の可動部の妨げになる場所に取り付けや配線をすると、事故や感電、火災の原因となります。

- ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。
- コード類をまとめる。
- ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。

⚠ 禁止

本機の通気口をふさがない

通気口をふさいだ状態で動作させると、内部に熱がこもり、火災などの原因となることがあります。

⚠ 禁止

車の性能を維持するための部品を使わない

車体のボルトやナットを利用すると、ステアリングやブレーキ系統、タンクなどの部品を使うと、制動不能や火災の原因となります。

● ステアリング系統
● ブレーキ系統
● タンク類など

⚠ 禁止

雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

⚠ 禁止

運転操作の妨げや車体の可動部の妨げになる場所に取り付けない

運転の妨げになる場合、車体の可動部の妨げになる場所に取り付けや配線をすると、事故や感電、火災の原因となります。

● ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。

● コード類をまとめる。

● ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。

⚠ 禁止

本機の通気口をふさがない

通気口をふさいだ状態で動作させると、内部に熱がこもり、火災などの原因となることがあります。

● ステアリング系統
● ブレーキ系統
● タンク類など

⚠ 禁止

雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

⚠ 禁止

運転操作の妨げや車体の可動部の妨げになる場所に取り付けない

運転の妨げになる場合、車体の可動部の妨げになる場合に取り付けや配線をすると、事故や感電、火災の原因となります。

● ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。

● コード類をまとめる。

● ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。

⚠ 禁止

本機の通気口をふさがない

通気口をふさいだ状態で動作させると、内部に熱がこもり、火災などの原因となることがあります。

● ステアリング系統
● ブレーキ系統
● タンク類など

⚠ 禁止

雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

⚠ 禁止

運転操作の妨げや車体の可動部の妨げになる場合に取り付けや配線をすると、事故や感電、火災の原因となります。

● ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。

● コード類をまとめる。

● ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。

⚠ 禁止

本機の通気口をふさがない

通気口をふさいだ状態で動作させると、内部に熱がこもり、火災などの原因となることがあります。

● ステアリング系統
● ブレーキ系統
● タンク類など

⚠ 禁止

雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

⚠ 禁止

運転操作の妨げや車体の可動部の妨げになる場合に取り付けや配線をすると、事故や感電、火災の原因となります。

● ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。

● コード類をまとめる。

● ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。

⚠ 禁止

本機の通気口をふさがない

通気口をふさいだ状態で動作させると、内部に熱がこもり、火災などの原因となることがあります。

● ステアリング系統
● ブレーキ系統
● タンク類など

⚠ 禁止

雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

⚠ 禁止

運転操作の妨げや車体の可動部の妨げになる場合に取り付けや配線をすると、事故や感電、火災の原因となります。

● ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。

● コード類をまとめる。

● ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。

⚠ 禁止

本機の通気口をふさがない

通気口をふさいだ状態で動作させると、内部に熱がこもり、火災などの原因となることがあります。

● ステアリング系統
● ブレーキ系統
● タンク類など

⚠ 禁止

雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

⚠ 禁止

運転操作の妨げや車体の可動部の妨げになる場合に取り付けや配線をすると、事故や感電、火災の原因となります。

● ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。

● コード類をまとめる。

● ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。

⚠ 禁止

本機の通気口をふさがない

通気口をふさいだ状態で動作させると、内部に熱がこもり、火災などの原因となることがあります。

● ステアリング系統
● ブレーキ系統
● タンク類など

3 本機を取り付ける前に

取り付け場所

- こんな取り付け場所はお避けください。
- ・運転の妨げになるところ
- ・グローブボックスのふたの開閉や、灰皿の出し入れの妨げになるところ
- ・ほこりの多いところ
- ・磁気を帯びたところ
- ・直射日光やヒーターの熱風などが当たるところ
- ・雨が吹き込んだり、水かかる所、湿気の多いところ



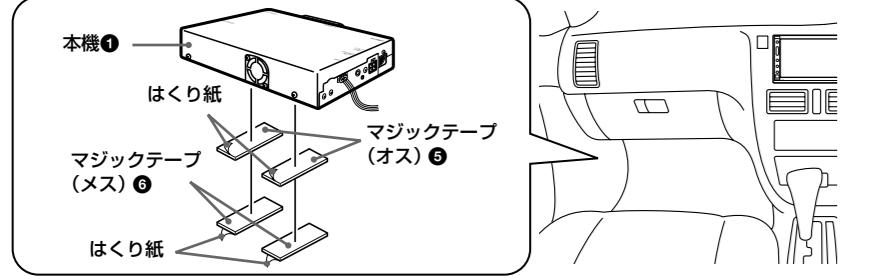
4 本機を取り付ける

1 本機①を取り付ける

本機①の裏側にマジックテープ(オス)⑤と、本機を取り付ける場所(助手席の下など)にマジックテープ(メス)⑥のはくり紙をはがし貼り付け、本機を固定します。各ケーブルがどこで位置に設置できるか、あらかじめ位置を確認してから固定してください。

ご注意

本機①がブレーキペダルの下にはさるとたしかに危険です。必ず助手席側に取り付けてください。

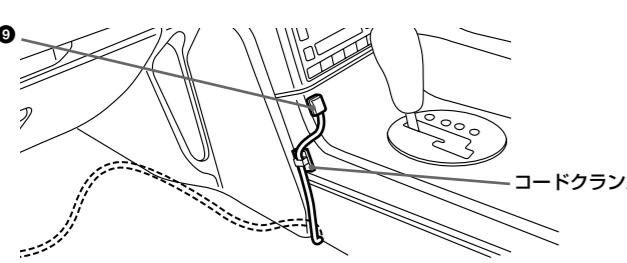


2 リモコン受光部⑨を取り付ける

- リモコン受光部⑨の裏面をクリーナー(チューナー用)⑩で汚れや油分を拭き取り、両面テープ⑪を貼り付けます。



- クリーナー(チューナー用)⑩で取り付け面の汚れや油分を拭き取り、運転の妨げにならない位置に取り付けてください。
リモコン受光部のコードは、必要に応じてコードクランパー⑫で固定してください。



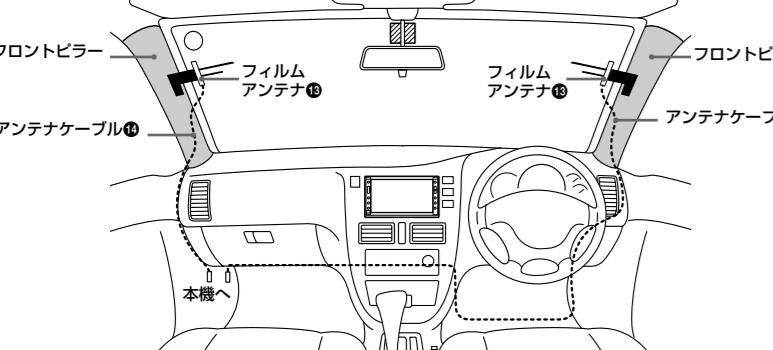
5 フィルムアンテナを貼り付ける前に

貼り付ける前に

- 貼り付け・配線するためには、フロントウインドウ周りの内装を一時的にとりはずす必要がありますので、ご了承ください。
- 車種によっては、取り付けられない場合があります。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 電波を通り抜かないガラス(熱線反射ガラス、断熱ガラス、電波不透過ガラスなど)を使用した車両では、受信感度が著しく低下します。
- フロントビラーにアパラチュームを搭載している車両には、取り付けられません。
- 水などでダッシュボードを汚さないように、布やシートなどで覆ってください。
- アンテナ表面保護用ピニールはがしたあと、アンテナ貼り付け面には手をふれないでください。指紋やゴミが付着しきることができません。
- フィルムアンテナは、はがれないようにしっかりと取り付けてください。取り付け部の接着が弱いと、走行中にはがれ、事故やけがの原因になりますので、時々点検してください。
- 低温時は、フィルムアンテナの性質上、接着力が低下しますので、取り付け時は車内を常温に暖めてから作業を行なってください。
- 天気の良い日に取り付けてください。雨、霧など湿気が多いときは、両面テープの接着力が低下し外れて事故やけがの原因となることがあります。

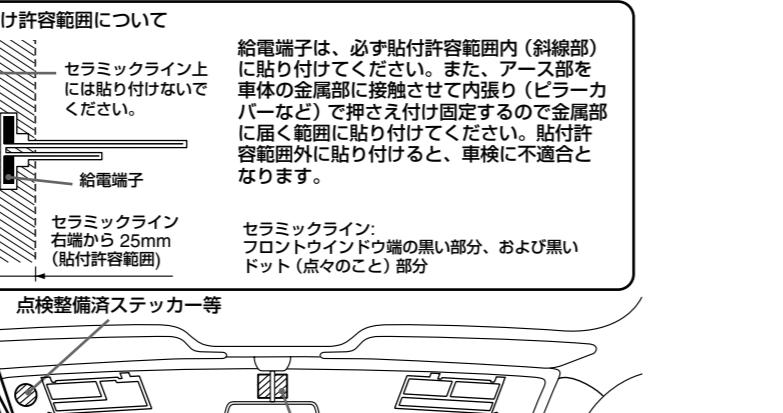
フィルムアンテナ⑬の貼り付け位置やアンテナケーブル⑭の引き回しなどを検討する

必ずケーブルおよびフィルムアンテナ⑬を仮止めし、アンテナケーブル⑭の引き回し等を十分に検討してから貼り付けてください。一度貼り付けると、貼り直しができません。



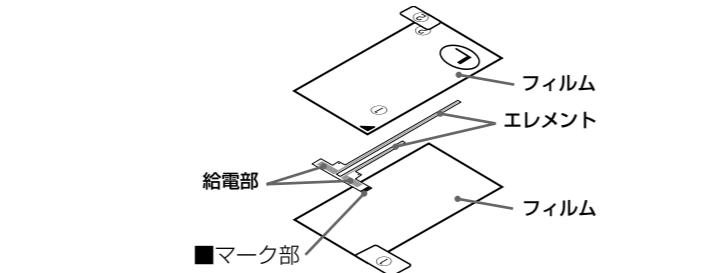
貼り付け位置について

- ・フィルムアンテナは、検査標準や定期点検ステッカーと重ならないように貼り付けてください。
- ・フロントウインドウの指定位置に貼り付けてください。
- ・下記「貼り付け許容範囲について」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。道路運送車両の保安基準第29条第4項第7号に適合するため、また、性能を充分に発揮させるため、貼り付け許容範囲からはみ出さないよう貼り付けてください。
- ・他のアンテナが取り付けてある場合は、妨害を防ぐため、他のアンテナが重ならないように100mm~150mm離して貼り付けてください。(下図参照)
- ・付属のフィルムアンテナはフロントウインドウ専用です。リアウインドウなど他の場所に取り付けないでください。
- ・取り付け順の中でも、アースを取るために、フロントビラーの内張りをはずす必要があります。お客様自分が取り付けをされる際に、フロントビラーの内張りの取りはずし作業が困難な場合は、車のお買い上げ店やディーラーにお問い合わせください。(作業工賃はお客様にご負担いただいく場合があります。)
- ・左ハンドル車の場合も、左右逆には貼り付けず、下図のとおりに貼り付けてください。



取り扱い上の注意点

- ・フィルムアンテナを折り曲げたり、キズを付けたりしないでください。断線等により電波の受信が悪くなる場合があります。
- ・はくり紙やフィルムをはがした後は、貼り付け面に手をふれないでください。フィルムアンテナ⑬の透明シート、コードクランパー(アンテナケーブル用)⑭のはくり紙をはがした後は手をふれないでください。また、長時間の放置はしないでください。
- ・フィルムアンテナのフィルムや給電端子のはくり紙をはがした後は、給電部などに手をふれないでください。静電気による故障や汗や汚れなどの接触不良の原因となります。
- ・貼り付けたあと、ガラスを拭くなどするときは、強くこすらないでください。また、シールやステッカーはがし剤を使わないでください。破損の原因となります。

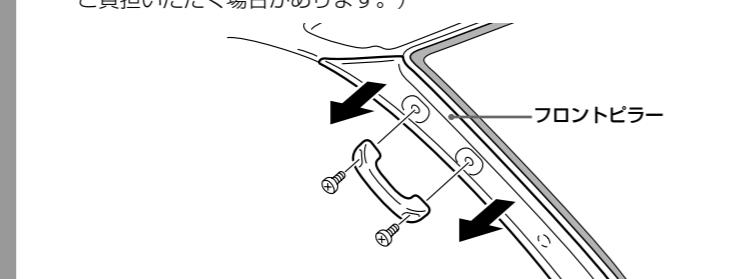


6 フィルムアンテナを貼り付ける

1 フロントウインドウ両端のフロントビラー(内張り)を取りはずす

ご注意

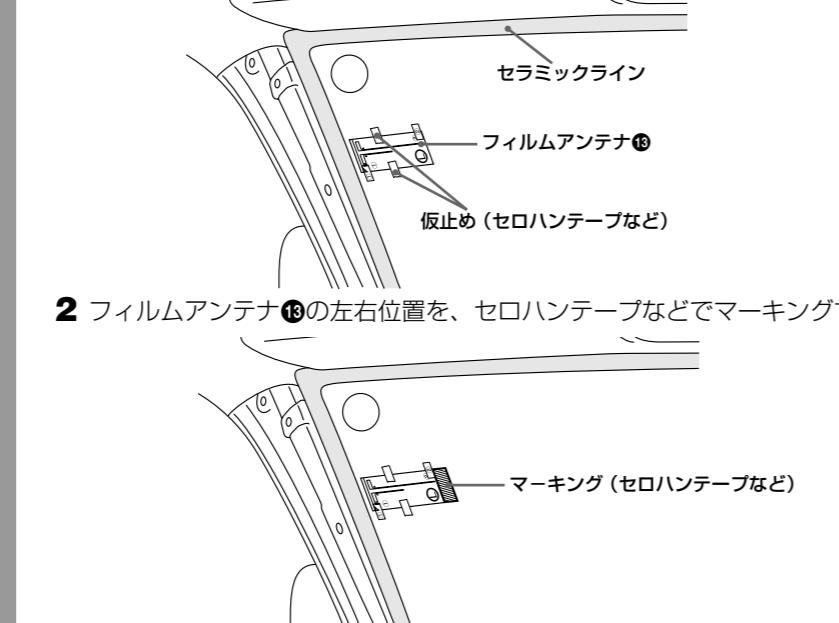
- ・フロントビラーの内張りはクリップやネジなどで固定されており、無理にはずすと、破損したり変形したりすることがあります。
- ・お客様自分が取り付けをされる際に、フロントビラーの内張りの取りはずし作業が困難な場合は、車のお買い上げ店やディーラーにお問い合わせください。(作業工賃はお客様にご負担いただく場合があります。)



2 フィルムアンテナ⑬の貼り付け位置を確認する

- フィルムアンテナの給電部を「貼り付け許容範囲について」に合わせ、セロハンテープなどで仮止めする。

ここではフィルムアンテナ⑬のはくり紙をはがさないでください。下図は車内側から見た左側の例です。右側も同様に貼り付けます。



3

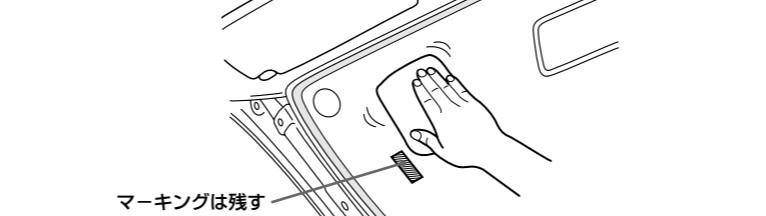
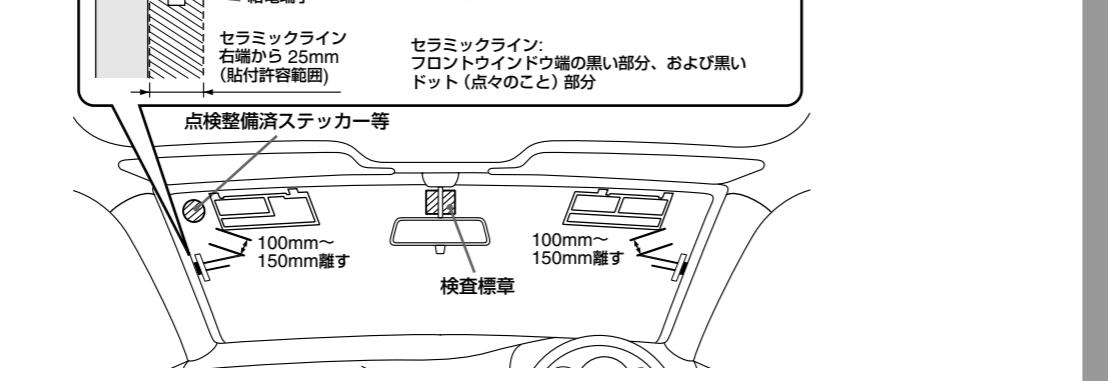
フィルムアンテナ⑬のエレメントを貼り付ける

マークリングは残して、仮止めしたフィルムアンテナ⑬を取り外してから行なってください。

エレメント貼り付けについてご注意

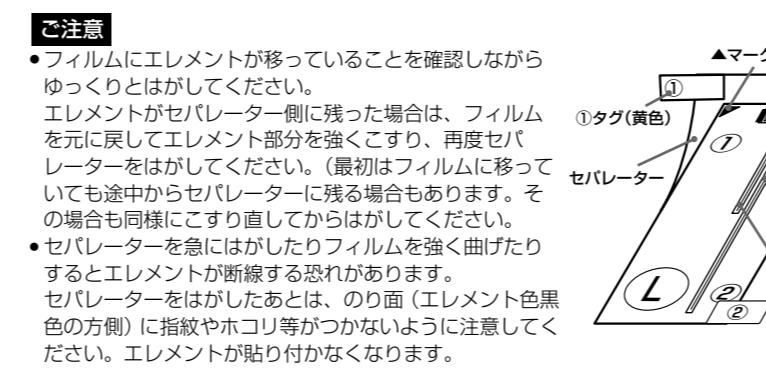
- ・給電部横にある幅2mm程度の▲マーク部はエレメントの移行を補助するためであり、この部分の裏面にはのりが付いています。そのためエレメントがフロントウインドウに移行後も浮いて見えることがあります異常にありません。また、この部分がフィルムはがすときにフィルムに残ることがあります。これは給電部の▲マーク部の境目を意図的に弱くしているため(エレメント移行の失敗を防止するため)ですので異常にありません。
- ・エレメントははくり紙は、エレメントとのりとフィルムののりの強さでバランスをとっていますが、エレメントが細いためまれに移行がうまくいかないことがあります。その場合は再度元に戻して、エレメント部分を強くこすり付けてからやり直してください。
- ・エレメント貼り付け直後(3時間以内)は貼り付けたエレメントにガラスクリーナー等を吹きつけたり、エレメントの上から直接ガラスを拭いたりしないでください。また、エレメント上面を拭くときは時間にかかわらず、柔らかい布等を使用し、エレメントに傷が付かないよう注意してください。

- フロントウインドウの汚れ(ゴミ、油など)やくもり止めをクリーナー(アンテナ用)⑭で拭き取る。クリーナーはきれいに拭き取りフロントウインドウは乾いた状態にしてください。



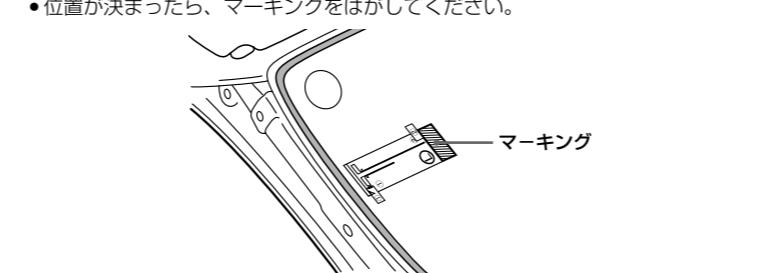
- ご注意**
フロントウインドウが乾かないときは貼り付けないでください。エレメントがフロントウインドウに貼り付かなくなります。

- アースのタグ(黄色)を持ってフィルム①の▲マーク部からゆっくりとセパレーターをはがす。

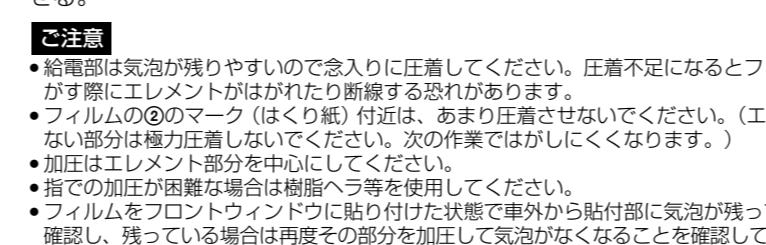


3 エレメントを貼り付ける。

- ご注意**
- ・車内から文字①、②、③が読めることを確認しながらマーキング(セロハンテープ)に合わせ貼付けてください。
 - ・空気が入ったり、しづが寄りたりしないように端から貼り付けてください。セラミックライン部には貼り付けてください。
 - ・エレメントはセラミックライン部分にかからないようにしてください。
 - ・位置が決まつたら、マーキングをはがしてください。

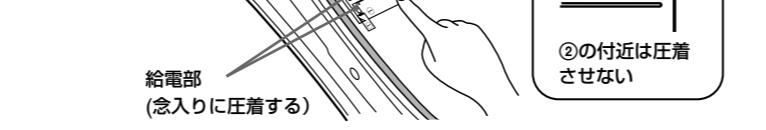


- フィルムを全面貼り付けた後、エレメント部分を強く押さえしっかりと圧着させます。



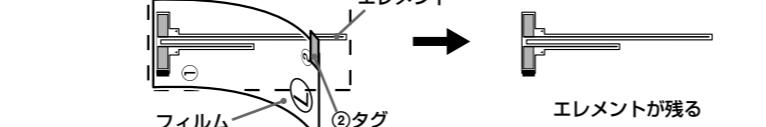
- ご注意**
- ・給電部は気泡が残りやすいので念入りに圧着してください。圧着不足になるとフィルムははがす際にエレメントがはがれたり断線する恐れがあります。
 - ・フィルムの④のマーク(はくり紙)付近は、あまり圧着せしないでください。(エレメントのない部分は極力圧着しないでください。次回の作業ではがにくくなります。)
 - ・加圧はエレメント部分を中心にしてください。
 - ・指での加圧が困難な場合は樹脂ヘラ等を使用してください。
 - ・フィルムははがれたり断線する恐れがあります。

確認し、残っている場合は再度その部分を加圧して気泡がなくなることを確認してください。



- ご注意**
エレメントがフロントウインドウに転写されているのを確認しながらゆっくりとはがしてください。

- ・①のタグ以外のところよりはがさないでください。また、勢いよくはがすとエレメントが断線しますのでやめてください。
- ・②のタグからゆっくりとはがしてもフィルムと共にエレメントがはがれる(フロントウインドウに転写されない)場合は、再度フィルムをフロントウインドウに貼り付け、エレメントがびて性能が低下する恐れがあります。
- ・フィルムははがれた後はエレメントの給電部に触れないでください。皮脂により給電部がさびて性能が低下する恐れがあります。
- ・貼付完了後には柔らかい布等で上から押さえつけるように加圧してください。このとき、エレメント部を拭くような場合はやめて、押さえつけるだけにしてください。

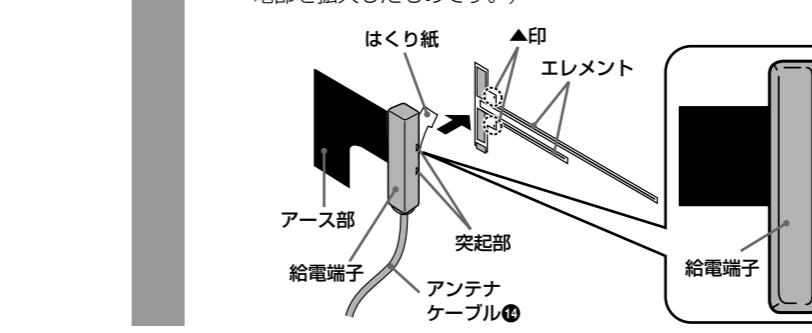


4

アンテナケーブル⑭をフィルムアンテナ⑬給電端子に取り付ける

- アンテナケーブル⑭の給電端子の突起部を、フィルムアンテナ⑬エレメントの給電部に取り付ける。

給電端子のはくり紙をはがし、エレメント給電部の▲印とケーブルの給電端子突起部を合わせて貼り付けます。(下図はアンテナケーブルの給電端子と、フィルムアンテナの給電部を描いたものです。)



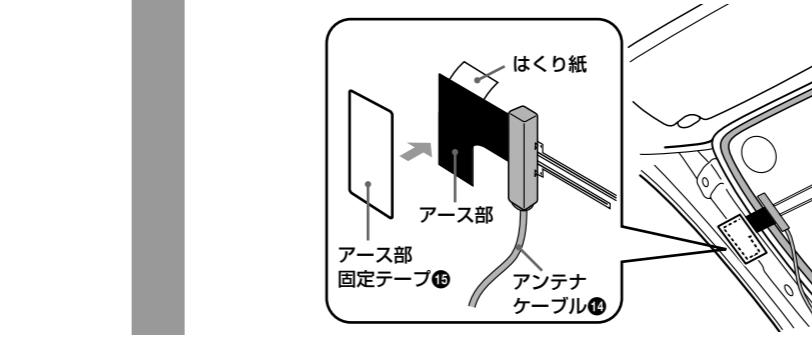
5 アンテナケーブル⑭のアース部を貼り付ける

- アンテナケーブル⑭のアース部のはくり紙をはがして車体の金属部へ貼り付ける。

車体の金属部の塗装を削る必要はありません。また、サイドウインドウにアース部がはみ出る場合は、切り抜けてフロントビラー内部に収まるよう市販のテープなどで固定してください。

- アース部固定テープ⑮のはくり紙をはがしてアース部の上から貼り付けて固定する。

金属部への接触が不十分だと受信性能が低下する恐れがありますので、必ず付属のアース部固定テープ⑮でしっかりと固定してください。

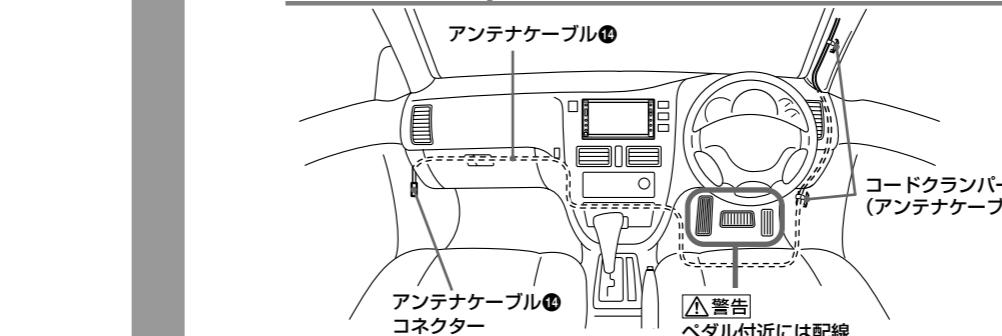
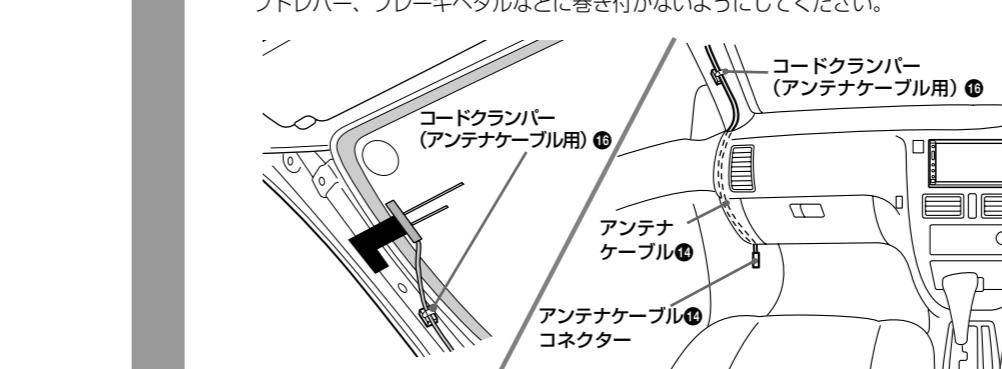


6 アンテナケーブル⑭を車に配線する

- コードクランバー(アンテナケーブル用)⑯でアンテナケーブル⑭を固定しながら配線する。

フロントビラーを取り付けた際にコードをかみ込み位置に配線してください。

- △警告**
コード類は運転操作の妨げにならないようテープなどでまとめてください。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付かないようにしてください。

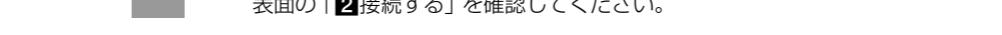


- フロントビラー(内張り)を元に戻す。

- 7 本機①に接続する**

- アンテナケーブル⑭コネクターを本機①のアンテナ入力1とアンテナ入力2に接続する。

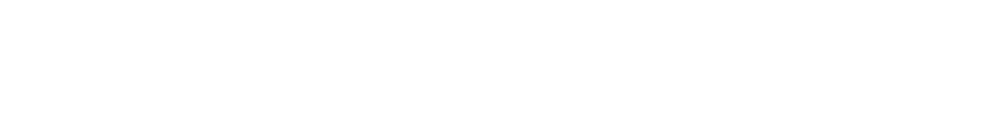
表面の「**2 接続する**」を確認してください。



- 5 フィルムを④のタグ(▲マーク部)を持ってゆっくりとはがす。**

エレメントがフロントウインドウに転写されているのを確認しながらゆっくりとはがしてください。

- ご注意**
- ・①のタグ以外のところよりはがさないでください。また、勢いよくはがすとエレメントが断線しますのでやめてください。
 - ・②のタグからゆっくりとはがしてもフィルムと共にエレメントがはがれる(フロントウインドウに転写されない)場合は、再度フィルムをフロントウインドウに貼り付け、エレメントを強くこすりなさいでください。
 - ・フィルムははがれた後はエレメントの給電部に触れないでください。皮脂により給電部がさびて性能が低下する恐れがあります。
 - ・貼付完了後には柔らかい布等で上から押さえつけるように加圧してください。このとき、エレメント部を拭くような場合はやめて、押さえつけるだけにしてください。



7 取り付けと接続が終わったら

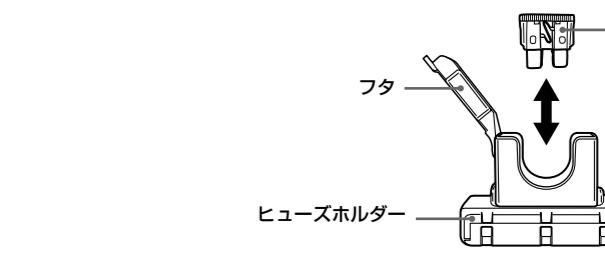
- 取り付けや接続に誤りがないか、各コードは確実に接続されているかを、もう一度確認する

- ブレーキランプやライト、ホーン、ウインカー、ワイパーなど、すべての電装品が正しく動くことを確認する

接続関係のご注意

ヒューズの交換について

電源コードの中間にヒューズが切れたときは、配線などをチェックして必ず原因を確かめ、適切な処置をしてください。その後、規定容量(アンペア数)のヒューズと交換してください。



故障かな?

接続関係に誤りがあると、以下の不具合がすることがあります。
表面の「**2 接続する**」に従って、正しく接続されているかもう一度ご確認ください。

症状	原因・処置
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> DINケーブルまたは、電源コードが正しく接続されていない。 アース用コード(黒色)、アクセサリー電源用コード(赤色)が正しく接続されていない。 ヒューズが切れたときは、お買い上げ店にご相談